# 共生型施設を拠点に進める相互支援と交流
# 町の将来を見据え、支え合う地域の創出へ

## 北海道の元気！NPO訪問 42 NPO法人 ゆうゆう

文・加藤知美

### ◇ 障がい者の成長を見守る共生型施設

ＪＲ当別駅からまっすぐのびるメインストリートに面した敷地に、大きなガラス張りの開放感あふれるカフェのような平屋建ての施設がある。「ＮＰＯ法人ゆうゆう」が運営する拠点の一つ、「当別町共生型地域オープンサロンＧａｒｄｅｎ」だ。入口に立つと甘い匂いがした。中に入ると、オープンキッチンで当別産米粉を使ったドーナツを焼いていた。ここは、地域の住民が行き交う場所で、障がいのある人が自分らしく成長することができる就労活動の拠点。ドーナツ屋、喫茶店、駄菓子屋の三つのお店が一つ屋根の下にあり、五人の障がい者が働いている。

ここに出入りする地域の人々は、お客さんとしてだけではなく、就労をサポートするボランティアだったり、コンサートやイベントの参加者だったり、一日コックとしてランチを提供するプロやアマチュアの料理人だったりと実に多様である。例えば、駄菓子屋で就労する障がい者と一緒にボランティアで店員をするおばあちゃんは、遊びに来る子どもたちの相手をしたり、商品管理や販売をしたりと多くの役割をこなす。会話、計算、手先の動作、自宅との往復の運動など、実は介護予防にもなっている。「支える側」「支えられる側」といった立場ではなく、地域住民の交流の輪で相互に支え合い、見守る関係を作り出す取り組みなのだ。

### ◇ 地域福祉の拠点で住民の交流を進める

こうしたオープンサロンを開設したのと同じ年に、歩いて三分ほどの距離にもうひとつの拠点の「当別町共生型地域福祉ターミナル」をオープンさせている。こちらは、子ども、高齢者、障がい者など、年齢や障がいの種別を越えた地域住民の交流を図り、様々な住民のボランティア活動情報や地域の福祉情報を集積し発信して関係を紡ぐための拠点だ。高齢者や学生などのボランティア活動を有機的に連携させながらコーディネートするほか、オープンスペースや会議室では随時イベントやサロンが開かれている。

駄菓子屋さんは放課後の子どもたちに人気のスポット

特徴的な活動の一つに「ごちゃまぜサロン」がある。参加する人が特技や趣味を活かして自ら企画して、できることもできないことも皆で話し合ってやることを決めていく。参加者自身が主役となり、子どもから高齢者まで世代を越えて交流を深めている。

この施設では、社会福祉協議会とＮＰＯ法人が机を並べている。一般的には組織の仕組みや成り立ちの違いから一緒に活動するのは珍しいが、地域を良くしたいという共通した志に着目し、相互に得意分野を補完し合って成果をあげている。あらゆる事業を一緒にやることが習慣化し、行政も巻き込んで、多様なステークホルダーが協働して当別町のまちづくりに関わるようになってきた。

また、「そこの困っている人に手をさしのべる」というスタンスで、地域の誰もが立場を固定せず支え合うという考えから生まれたのが、有償ボランティア「パーソナルアシスタントサービス」という制度だ。公的制度ではなかなか提供できない、通勤支援や犬の散歩の支援、買い物支援などのサービスを一時間五〇〇円で地域住民が行う。大学教員や福祉関係者が講師となり、事業所などでの実習も含む三〇時間の講座を受けた大学生から団塊世代までの地域住民約五〇人がボランティアとして登録している。福祉サービスの提供者というより、自らの特技や趣味を生かしながら一地域住民として福祉の役割を果たしていくような仕組みだという。

## ◇ 町の将来を見据え、「地域を創る」を理念に

住民交流の拠点にもなっている
当別町共生型地域福祉ターミナル

「ＮＰＯ法人ゆうゆう」は、当別町内に六カ所の事業所を運営するほか、その事業モデルを活用して、隣接する江別市でも二カ所の事業所を運営し、財政規模は二億円を超えている。

その前身の活動は、二〇〇二年、当別町と北海道医療大学が共同で設立した学生ボランティアセンターだ。商店街の空き店舗を活用した事業で、登録学生数は五〇〇名を数えた。学生による障がい児・者の一時預かりのレスパイトサービスを立ち上げるなど、地域で生きづらさを抱えた人々を支援した。やがて活動がボランティアセンター機能にとどまらなくなったことから、二〇〇五年、「ＮＰＯ法人当別町青少年活動センターゆうゆう24」として、障がい者の支援を主とした地域生活支援事業所を設立するに至った。当時大学院生だった大原裕介さんは、その頃、出身地の札幌から当別町に移り住み、ＮＰＯ法人の事務局長として福祉の専門家としての実践をしつつ、団体運営に没頭した。目の前のことを必死で乗り越えることを繰り返すうちに、ニーズに引っ張られるように活動は大きくなっていった。現在は「ＮＰＯ法人ゆうゆう」と改称し、その理事長としてまちづくりに奔走している。

法人の理念は「地域を創る」。福祉サービスの事業を地域で展開するというのではなく、障がいの有無や年齢に関係なく、困っている人に住民が自然と手をさしのべるような地域の仕組みを創出するという考え方だ。二〇〇六年、財政破綻により様々な福祉サービスが切り捨てられることになった夕張市で、一度は休館した会館の運営を引き受けて福祉事業を展開した際、高齢化した地域は専従者が担う福祉だけでは限界があることを痛感し、人口二万人弱の当別町の近い将来を想像し、地域創りの思いを新たにした。また、東日本大震災後には、岩手県田野畑村で、障がい者の就労支援を行っていたＮＰＯを支援し、丁寧なリサーチでニーズを読み取り、児童デイサービスの事業所の立ち上げにこぎつけた。

大原さんは、ＮＰＯ法人としての七年間の活動によって様々な形の地域の交流が生まれたことに手応えを感じつつも、山積する地域課題に焦りを感じてもいる。急速に進行する高齢化と人口減少、格差の拡大などの結果、二〇三〇年に地域がどのような構成になっているか推測すると、今の取り組みのスピードでは間に合わないという危機感だ。町の将来を見据えて、地域で議論を重ねながら仕組みづくりを続けたいとしている。

誰もが主役になる「ごちゃまぜサロン」

◆ ＮＰＯ法人ゆうゆう
所在地　石狩郡当別町六軒町69－11
ＴＥＬ　０１３３－２２－２８９６
ＷＥＢ　http://yuyu24.com/